



編集・発行
県南教育事務所



「読書について」

白河市教育委員会教育長 星 浩 次

白河市立図書館「りぶらん」は、平成23年7月開館以来現在まで通算130万人の来館、約200万冊の貸出となった。平日ばかりでなく特に休日には、子ども達がお父さんやお母さんと一緒に楽しそうに過ごしている姿や、高校生や大人までそれぞれの目的に合わせ利用している姿が見られる。また、白河市では「りぶらん」を起点として学校司書の全小・中学校への配置を計画し、学校図書館を整備し児童生徒によりよい読書習慣を身に付けさせ読書活動を支える事業に取り組んでいる。

読書については、古くから、「ひとり灯のもとに文をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよのう慰むわざなる。」(兼好法師「徒然草」)や「たのしみは そぞろ読みゆく書の中に 我とひとしき人を見し時」(橘曙覧「独楽吟」)にあるように、知的好奇心を満たす楽しみな行為として位置付けられてきた。

今年度の第21回中山義秀文学賞を受賞した風野真知雄氏の歴史小説「沙羅沙羅越え」を読んだ。その中で、厳冬の北アルプス越えを成し遂げた戦国武将・佐々成政に同行した家来たちの語る言葉に、

「人の生涯というのは、成功か不成功かではなく、全力を尽くしたか、尽くさなかったか、そういうところで決

まるのではないのでしょうか。」とあった。

本を読んでいると、登場人物の何気ない言葉や動作、心情や風景の描写に興味や共感を持つことがある。これもまさに自分の「腑に落ちた」共感できる一文であり、そのような体験が読書の楽しさである。

現代社会は毎日おびただしい量の出版物が発行され、メディアを通して多くの情報が氾濫している。また子ども達の中には携帯電話やスマートフォンなどの情報端末機器に過度に依存する一方、本や活字に全く触れない「不読」の状況も見られる。

氾濫する情報の中から、的確に取捨選択し有益な情報を主体的に獲得すること。相手の反応や心情を忖度しながら適切な言葉を選んで発信すること。主観的感情的になりがちな自分の考えを客観的論理的に整理して構築すること。これらは、読書によって一人静かに沈黙思考する内省の時間を経て培われるものである。

確かに忙しい毎日であるが、一日のうち10分でも20分でも意図的に読書に充てることは可能である。教育に携わる者の一人としてそうあり続けたい。そのような大人の姿を見せることにより「不読」の子ども達を少なくして、多くの子ども達に読書の大切さや楽しさを伝えたい。

受賞おめでとうございます ～平成27年度教育・文化関係表彰～

(敬称略)



- 文部科学大臣表彰
 - 優良PTA文部科学大臣表彰
白河市立白河第二中学校PTA
 - 地方教育行政功労者表彰
前西郷村教育委員会教育長 加藤 征男
- 県教育委員会表彰
 - 地方教育行政功労者表彰
元泉崎教村育委員会教育委員長 本柳 功
 - 社会教育功労者表彰 前白河市社会教育委員 鈴木きよ子
 - 優秀教職員表彰 西郷村立羽太小学校教諭 鈴木 純子
 - 永年勤続教職員表彰
小・中学校32名 県立学校11名 教育事務所1名
 - 教職員研究論文
入選 団体 矢祭町立関岡小学校 代表 校長 菅野 輝義
個人 白河市立白河第三小学校教諭 近藤 和哉
 - ふくしまっ子体力向上優秀校
白河市立白河中央中学校
白河市立白河第二中学校
棚倉町立棚倉中学校
白河市立釜子小学校
白河市立大信中学校
 - 食育推進優秀校表彰 最優秀賞
優秀賞
白河市立白河第五小学校
西郷村立小田倉小学校
白河市立表郷中学校
塙町立笹原小学校
白河市立大信中学校
 - ふくしまっ子ごはんコンテスト学校賞
白河市立白河第五小学校
西郷村立小田倉小学校
白河市立表郷中学校
塙町立笹原小学校
白河市立大信中学校
 - ふくしま地産地消大賞
 - 知事賞 鮫川村学校給食センター

- 県学校給食会表彰
 - 学校給食功労者
塙町立塙中学校栄養教諭 鈴木 百代
福島県立白河第二高等学校主任調理員 河原田栄子
- 県学校保健会表彰
 - 学校保健功労者
福島県立白河実業高等学校 学校医 關 元行
福島県立西郷養護学校 学校薬剤師 山下 聖子
白河市立五箇小学校 養護教諭 渡邊 典子
西郷村立熊倉小学校 養護教諭 齋藤 宇子
 - 学校保健会感謝状
前白河市立五箇中学校 養護教諭 面川 幸子
- 県学校歯科保健優良校表彰
 - 最優秀賞 白河市立信夫第二小学校
 - 優秀賞 白河市立釜子小学校
西郷村立米小学校
西郷村立羽太小学校
白河市立五箇中学校
- 福島県歯科医師会表彰
 - 第18回よい歯の幼稚園表彰
奨励賞 西郷村立西郷幼稚園
- 福島県学校緑化コンクール表彰
 - 学校環境緑化の部
福島県森林・林業・緑化協会会長賞 矢祭町立内川小学校

夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

～学校教育課 平成27年度事業の成果～

「道徳教育の充実と 豊かな心の育成」

「特別の教科 道徳」の内容が示され、道徳教育の充実が求められる中、県南域内では道徳教育推進校の鮫川小学校をはじめ多くの学校で、多様な授業の展開、資料活用やテーマ発問の工夫など、「考え、議論する道徳」の実践が行われました。登場人物の心情理解に偏る授業から、子どもたちが、道徳的価値を自分との関わりで考え、友達の意見に刺激されながら物事を多面的、多角的にとらえる授業が多くなってきました。こういった授業改善の取組によって、さらに子どもたちの道徳性が養われ「豊かな心」が育っていくと考えます。

また、1月には「ふくしま道徳教育資料集[補訂版]全3集」が各学級分配付されました。先日の道徳教育実施状況調査では、「ふくしま道徳教育資料集」の学校での活用状況は100%でしたが、“全学年で活用した”は43%となっています。資料集には、「いのち」や「思いやり」「強い意志」「郷土への思い」などを考えることができる資料が多く掲載されています。来年度は、全学年、全学級で活用を目指し、人とのつながりを大切にしながら、たくましく生きる子どもたちを育てていきたいと思っています。



「確かな学力の向上」

1月28日(木)に第2回学力向上担当者等研修会を開催しました。今年度の「つなぐ教育」推進地域の中島村と矢吹町の実践報告会を行いました。幼小中の連携、学校と家庭・地域との連携等を通して、組織的、系統的な実践が紹介されました。

【中島村の取組】

- 「いきいき中島っ子 育ちの五か条」「いきいき中島っ子 学びの十か条」の活用
- 「いきいき中島っ子 学びの手引き」の作成
- 授業の中での「話型スキルの活用」
- テレビ会議システムの活用 等

【矢吹町の取組】

- 4つの提言(①家庭で勉強する習慣を ②食事や睡眠などを適切に取る習慣を ③テレビやゲーム、携帯電話、パソコンなどの使用はルールを決めて ④読書を楽しむ習慣を)
- 矢吹町授業スタンダードに基づいた授業づくり
- 「やぶきっ子まなびのフォーム(不易な学習規律・構え)」による取組
- 「矢吹型家庭学習の手引き」の活用
- 小中交流連携授業(算数)の取組
- 学校司書の活用 等

「健やかな体の育成」

全国体力テストの結果、県南域内では、下表のとおり小学5年女子、中学2年男子で全国平均を上回りました。年度ごとに得点の上下はありますが、域内のおよその傾向を把握していただけることと思います。

域内のある中学校では、自校の課題解決のため日課表を見直し、生徒会活動との関連を図りながら体力向上の時間を設定し、成果を挙げています。柔軟な発想でスピーディーに実践化することにより生き生きとした子どもの姿が具現されているすばらしい実践です。

健康・体力の課題に対して、授業及び授業以外での取組はどうか、家庭との連携は十分かなど、様々な視点から具体的な対策を練り、より一層子どもの健やかな体を育成する指導をお願いします。

全国体力・運動能力調査 体力合計点				
	小学5年		中学2年	
	男子	女子	男子	女子
H27 全国平均	53.81	55.19	41.80	48.96
H27 県平均	52.86	55.23	40.77	47.77
H27 県南平均	53.00	55.39	42.41	48.63
H26 県南平均	52.12	54.57	40.82	48.99

「特別支援教育の推進」

平成28年4月1日に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行されます！！

この法律の施行により「障害を理由とする差別の禁止」はもちろんですが、公立学校等においては、本人・保護者の意思の表明に基づく「合理的配慮」の提供が、法令上義務化されることを踏まえた対応をする必要があります。

「合理的配慮」とは、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるものです。学校と本人・保護者と発達の段階を考慮しつつ、「合理的配慮」の観点(①教育内容・方法 ②支援体制 ③施設・設備)を踏まえて、可能な限り合意形成を図ることが大切です。また、「合理的配慮」の内容については、個別の教育支援計画に明記しておくことが重要です。

「合理的配慮」の詳細については、国立特別支援教育総合研究所のホームページの「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」をご参照ください。

各学校・園においては、校(園)内の特別支援教育の支援体制整備に努めていただいているところですが、校内研修の実施にあたっては、特別支援学校のセンター的機能を活用することもできますので、県南教育事務所までお問い合わせください。

社会教育推進のための主な重点事業

～今年度の十七字のふれあい事業より～

各学校、幼稚園、市町村教育委員会のご理解とご協力により、第14回となる「十七字のふれあい事業」にたくさんの応募をいただきありがとうございました。

今年の域内からの応募数は、昨年より300組多い10,750組（県全体の応募数38,594組の約3割）に及び、いかにこの事業が県南地域に定着しているかがわかります。

応募いただいた方々から、「子どもと一緒に考えて、楽しい時間を過ごすことができた。」「作品作りを通して、よいふれあいの機会となった。体験したことの価値をあらためて感じる事ができた。」「作品作りも楽しいが、他の方の作品を読むことも楽しみだ。」など、事業への期待が込められた感想もたくさんいただいています。

作品には、親と子、兄弟姉妹、祖父母と孫とのふれあいや日常の体験が見事に表現されており、「家族の絆」の大切さや、愛情の深さを感じさせてくれます。

県南教育事務所では、域内に根づいている本事業を継承発展させるために次の3つの取組を行っています。

1 気持ち伝わる「十七字のふれあい」支援

県南教育事務所の家庭教育支援プログラムの一つとして、保護者会の時間などをお借りして、「十七字のふれあい」の過去の優秀作品などを紹介し、作品作りのコツやポイントをお話するミニセミナーを開催して

います。

2 県南域内表彰

応募率が高く、またすぐれた作品が多い学校に対して、「奨励賞」を授与し、事業の推進、奨励を図っています。

3 「県南域内作品集」の発行

多数の応募作品の中には、県の審査では惜しくも漏れてしまったもののすばらしい作品がたくさん残っています。これを「県南域内作品集」としてまとめ、関係機関にお送りしています。以下に「県南域内作品集」から、県の審査で佳作を受賞した作品を紹介します。

終戦の 記憶をまごへ 初語り 國分恵三郎	八十の 祖父母と話す 終戦日 白河南中 三年 木村拓夢	肩並べ 我が子に伝える 母の味 鈴木利江	こんなにも 大変だった お弁当 表郷中 一年 鈴木望可	手のマメは 鉄棒からの 合格証 坂井貴道	さか上がり やつと回れて ハイタッチ 東館小 四年 坂井奈央
-------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------	---

幼稚園・適応指導教室 紹介

「心豊かに たくましく 育ち合う子ども」

矢吹町立中畑幼稚園

本園は、田園に囲まれた自然豊かな場所に昭和40年4月矢吹町立矢吹幼稚園中畑学級として開設し、昭和47年4月矢吹町立中畑幼稚園と名称を改めました。

教育目標「こころいっぱい」「からだいっぱい」「ともだちといっしょ」の達成に向けて、家庭・地域・職員が一体となって連携を図り、大人が良い環境となって子ども達の育ちを捉え認める・褒める・励ますことを心がけ、わくわく生き生きと生活できるよう支援しています。

また、生活や遊びを通して基本的生活習慣を身につけて道徳性を培っています。

今年度は、地域の教育力を生かし、四季折々の野菜を栽培し、収穫・調理して食育につないだり、神楽・餅つき・民謡踊り・茶道等を体験して伝統行事の大切さを伝えることができました。家庭・地域の方々に温かく大切に見守られながら、感謝の気持ちや命の大切さ、考える力など感性豊かな子どもを育成するとともに、失敗・悔しさの体験を乗り越え、諦めないで挑戦する力も育てています。



神楽体験

『かめの子教室』は最後の砦

棚倉町適応指導教室

『かめの子教室』は、平成6年7月1日に創設され、登校できない子ども達の止まり木のような役割を果たしてきました。傷ついた心を癒し、パワーを蓄え、再び飛び立つお手伝いをする最後の砦です。当時は画期的な試みであり、町内は勿論、近隣の市町村からも通級する児童生徒が大勢いました。これまでに120名以上の子ども達が巣立っていきました。開設日は月から金曜日まで、開設時間は午前9時から午後3時までです。子どもとの話し合いを大切にしながら、基本的生活習慣の確立、自立心や人間関係力の育成、基礎学力の定着などを目標として学校復帰を支援しています。保護者にも深く寄り添うように努めており、様々な教育相談に応じています。

子ども達の願いや個性を伸ばすために、茶道、陶芸、スポーツ、ギターの指導、切り絵等々、助けてくれるサポーターが大勢控えています。学校や関係機関の応援協力も嬉しく思います。時々卒業生達が来室して、助言をしていきます。人生に無駄なことは一つもないのです。



今年度を振り返って



「子どもが輝く学校」
白河市立五箇中学校
校長 長嶺 吉浩

五箇地区は幼・小・中学校が地域に1校ずつの、地域と一体感のある学区です。昨夏、第59回となる校内駅伝大会を実施いたしました。五箇地区を全て巡り、小学生も保護者の方も選手として走り、地域の方のたくさんの応援をいただきました。生徒全員と保護者と地域がひとつの輪につながり、地域の方の一人一人の生徒に寄せる思いを強く感じました。学校はその輪の中心となり、一人一人の生徒のために日々努力して参りました。五箇中だからこそできる教育、五箇中でなくてはできない教育達成のため、今後も教職員とともに歩んで参ります。



「希望ヶ丘」
西郷村立西郷第二中学校
教頭 渡邊 泰昌

西郷第二中学校の校地に「希望ヶ丘」という小高い丘があります。この場所は、毎年多くの生徒が、桜の咲く季節に登り、遙か遠く的那須連峰を眺めながら自分の夢に想いを馳せる場所になっています。この希望ヶ丘で描いた生徒の夢を実現するために、校長先生を中心に一丸となって生徒を支える先生方に大変感動を覚えました。4月に着任して以来、自分ができることは何かを考え仕事を進めています。多くの事を教えられるばかりです。私は、この丘で夢を願った子ども達のために自分に課せられた仕事に全力で当たっていきたいと思います。



「礎」
福島県立白河高等学校
教諭 木村 愛

「初任の一年目の過ごし方で今後の教員人生が決まる。」これはこの一年間、多くの先生方からご指導を頂いたなかで、特に印象に残っている言葉です。私は常にこの言葉を意識していました。

白河高校の生徒の進路実現のために、教科指導や生徒指導に全力で取り組んできました。しかし、そのなかで自分の反省点や次年度への課題も見つかりました。

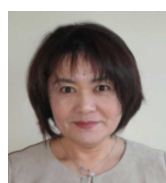
この一年の経験を自分の「礎」として今後に向けてさらに努力し、周囲への感謝の気持ちを忘れずに様々な経験を通して邁進していきたいと思います。



「日新其徳」
福島県立塙工業高等学校
教頭 永山 広克

本校は、水郡線唯一の工業高校として、地域社会の中心となって活躍できる人材の育成に努めてきました。生徒一人ひとりに徹底した個別指導を行うため、技術者として必要な知識や高い実践力を身に付けることができます。そのような環境で、教職員と生徒が一体となり努力し、目標を達成する姿に日々感動しています。

本校に「日新其徳」の書があります。昨日より今日、今日より明日、日々新たなり。常に修養に心がけ、生徒達の限りない可能性を感じながら、情熱を持って教育に専心していきたいと思います。



「故郷に根をはる」
泉崎村立泉崎第二小学校
教頭 大倉 幸子

本校の保護者の多くは本校の卒業生です。児童の父母、そして祖父母曾祖父母に至るまで、たくさんの方々が本校で教育を受け、あるいはPTAで活躍してこられました。数十年が過ぎた現在、除雪や見守り隊、学力向上等、学校に協力していただいています。

先日の学校生活アンケートでは、多くの児童が「学校がすき」と答えてくれました。これから先20年50年と本校の教育風土が受け継がれるためにも、「学校がすき」であり「泉崎がすき」と言ってくれる児童を育てていかなければと思います。



「初任者としての1年間」
福島県立西郷養護学校
教諭 平野 英里

初めての土地と学校に緊張して着任したときのことを昨日のことにように思い出します。子どもたちの元気一杯な挨拶や笑顔で毎日が始まり、気が付けば1年が経ちます。諸先生方からの丁寧なご指導のもと、1年間の研修に励んできました。日々の研修は大変でしたが、子どもたちの「わかった!」「できた!」という嬉しそうな表情を見て一緒に喜ぶことが、私のやりがいとなり、この1年間を乗り越えることができました。これからも子どもたちの笑顔を大切に、子どもと共に学び合う姿勢を心掛け教師としての自分を磨いていきます。